

ブラジル社会の裏側をえぐり出す
「シティ・オブ・ゴッド」を凌ぐ真実の衝撃



LEI VAI
MATA A AR-GERAL
AS 6 HS
ARRANCARÁ

2000年6月12日リオデジャネイロで、
若い男が乗客11人を人質にバスに立てこもった。

バス174

BUS 174

バスジャック事件に隠された
現代社会とメディアを鋭く浮き彫りにする
渾身のドキュメンタリー

dirigido por **JOSÉ PADILHA**
 produzido por **JOSÉ PADILHA e MARCOS PRADO** co-direção de **FELIPE LACERDA** co-produção de **RODRIGO PIMENTEL**
 montagem / **FELIPE LACERDA** fotografia / **CÉZAR RODRIGUES e MARCELO GURU** música / **JOÃO NABUCA e SACHA AMBACK**
 som / **ALOISIO COMPASSO e YAN SALDANHA** edição / **FERNANDA CARDOSO e JORGE ALVES**

2002年 リオデジャネイロ国際映画祭 国際審査員賞最優秀ブラジル映画 / 観客選出最優秀ドキュメンタリー賞
 2002年 サンパウロ国際映画祭 国際審査員賞最優秀ドキュメンタリー賞 / ドキュメンタリー映画新人監督賞
 2003年 ロッテルダム国際映画祭 国際 アムネスティイ賞 2003年 コペンハーゲン国際ドキュメンタリー映画祭 アムネスティイ賞
 2003年 News week ドキュメンタリーベスト5選出

監督:ジョゼ・パディリャ 2002年/ブラジル/カラー/ヒスタ/ドルビー-SR/1時間59分/原題:Onibus174
 配給:アニー・プラネット 提供:アスミック・エース エンタテインメント www.bus174.jp
 後援:ブラジル大使館 アムネスティイ・インターナショナル 日本

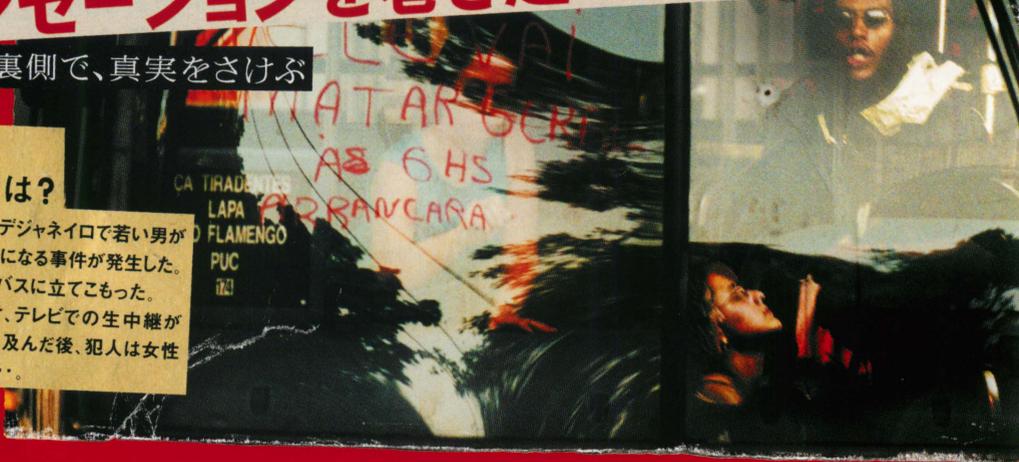
『シティ・オブ・ゴッド』を凌ぐ衝撃! 世界でセンセーションを巻き起こした問題作

日本の裏側で、真実をさげふ

<174路線>

バスジャック事件とは?

2000年6月12日、ブラジルのリオデジャネイロで若い男がバス強盗に失敗、乗客11人が人質になる事件が発生した。犯人はピストルを持ち、人質を楯にバスに立てこもった。瞬間に多くのメディアが駆けつけ、テレビでの生中継が始まった。状況はこう着、5時間にも及んだ後、犯人は女性の人質1人を連れて、バスを降りた…。



執念と命がけの年月を貫き、ブラジルの暗黒面をえぐり出した渾身のドキュメンタリー

<174路線>バスジャック事件の背景にはブラジル社会のゆがみや貧困、麻薬問題、社会福祉制度の遅れ、警察の横暴など様々な問題点が潜んでいる。パジーリヤ監督は、テレビ中継VTRを入手すべく各テレビ局を口説く一方で、2年間に渡ってサンドロの足跡をたどり、取材を拒否する警察にも働きかけるなど奔走した。『バス174』は、執念で入手した莫大な量のVTRを編集すると同時に、サンドロの家族、友人、警官、取材陣、人質らの証言を織り交ぜ、事件の本質と伴にブラジル社会が隠蔽してきた恥部を暴き出した衝撃的なドキュメンタリーである。

メディアが創り上げた劇場型犯罪、日本人にとっては対岸の火事か?

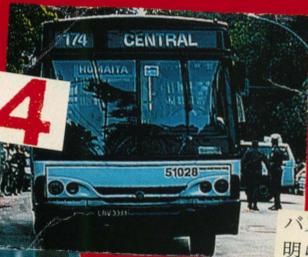
犯人のサンドロはリオで育ったストリート・チルドレン。始まりはケチな強盗事件だったが、バスジャック事件に伸展したことでメディアなど衆人環視の中の劇場型犯罪となってしまった。警察が現場規制に失敗、テレビが生中継を始めたため、ブラジル中の人々が固唾を呑んで見守ることとなる。サンドロがその状況を利用し、警察は狙撃などの手が打てなくなった。

時を同じくして、日本でも佐賀で西鉄バスジャック事件が起きた。このような事件が起きたとき、どのように対応すべきなのか。メディアは? 警察は? 我々は傍観者のひとりでのよいのだろうか。

本年度最高に心揺さぶる映画の一本。決して見逃すな! 『狼たちの午後』の実録版だ。
—— タイムアウト ニューヨーク版

『シティ・オブ・ゴッド』に比肩する作品。悲劇としての力強さとともに、第一級の調査ジャーナリズムの奥深さを併せ持つ。胸がしめつけられ、夢中にさせる!
—— ニューヨークタイムズ

バス174



バスジャック犯サンドロと関わった多くの人々の証言で明らかとなるのは、ブラジルに存在するすさまじい貧困の実態と、社会からこぼれ落ちていくストリート・チルドレンの群れが生きていく、その胸を打つ光景である。豊かな社会、ニッポンで同年に起きた佐賀バスジャック事件の真相が未だ闇に沈んだままなのに対し、『バス174』はこれでもかと言わんばかりに事件のすべてを訴えかけてくる。
—— 鳥越俊太郎 (ジャーナリスト)

サンドロと人質の女性は、誰によって殺されたのか? 警察なのか。メディアなのか。それともあの場が集まって「殺してしまえ」と声を張り上げる群衆なのか。冒頭とエンディングに映し出されるリオの空撮が日本のどこかで上映されるとき、「我々一人ひとりがサンドロの運命に関わっている」との監督ジョゼ・パジーリヤの言葉は、時空を越えて、今の日本社会に、そこに帰属する僕たちに、隙間なく符合し、そして重くのしかかってくるはずだ。

—— 森達也 (映画監督)

監督:ジョゼ・パジーリヤ / 共同監督・編集:フェリッピ・ラセルダ / 製作:ジョゼ・パジーリヤ、マルコス・ブラド / 共同製作:ホドリゴ・ビメンチウ / 撮影:セサル・モラエス、マルセロ・クル / 音楽:ヤン・サウダーニャ、アロイ・ジオ・コンパッ / リサーチ:ジョルジ・アウヴィス、フェルナンダ・カルドーゾ / サンドロ:ジョアン・ナブコ、サーシャ・アンバッキ / 助監督:アレシャンドレ・リマ
2002年/ブラジル/カラー/ビスタ/ドルビー-SR/1時間59分/原題:Ônibus174
配給:アニメフレッツ / 提供:アスミック・エースエンタテインメント



6.4(土)~7.29(金)
期間限定の衝撃ロードショー!

特別鑑賞券 ¥1,500 発売中

11:45 14:15 16:45 19:15

上映スケジュールは変更になることがあります
※HD上映 / ドルビーステレオ / スタンダード (1:1.33)

バルコ	急遽通り	丸井
バルコ	エペイン	丸井
	西武百貨	
	ライズビル	
	100	
	東武	

ライズビル エックス
渋谷公園通りバルコ3前 ライズビル
tel.03-3464-8555 www.cinemarise.com
自由席・各回入替制